

令和7年度 学校評価(前期) 報告書

伊予市立双海中学校 令和7年7月

No. 3

【評定基準】 A:目標を9割以上達成 B:8割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満の達成

4:そう思う 3:どちらかと言えばそう思う 2:どちらかと言えば思わない 1:思わない ◎肯定率8割以上、○6割~8割、△6割以下

項目	重点目標	質問項目 ○生徒、◎保護者、□教職員、△地域有識者	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果(%)					R6.12月 肯定率
							4	3	2	1	肯定率	
3 生徒指導	・いじめ・不登校・非行・事件・事故等の未然防止、早期発見・早期対応・早期解決のための家庭・地域・関係機関と連携・協働体制の強化	⑪	A	【考察】 保護者の回答の肯定率が、前年度の12月に比べて低くなっている。生徒の回答も危機意識をもって現状をとらえなければならない状況と言える。潜在的な人間関係のトラブルは常に存在しているとの意識で生徒の人間関係を見つめていかなければならない。 【改善方策】 引き続き生徒に関する情報交換を日ごろから密にし、全教職員で共通理解のもとで指導に当たることを常とする。生徒の行動につながる人権学習をさらに充実させ、日常生活における自分の言動を振り返り、改善することができるような感性や行動力を身に付けさせていく。また、人権侵害に当たる言動については、見過ごさず、丁寧な指導を行っていく。	生徒アンケート	◎	70	23	3	5	93	91
					保護者アンケート	○	35	45	17	3	79	
		⑫	A	【考察】 昨年度12月と比較して、保護者の肯定率は向上しているが、生徒の肯定率は低下している。教師は指導・対応しているつもりでも、生徒には届いていないことも考えられる。また、教師に関わってほしいことがあっても、直接言いにくい生徒も存在していると考えられるため、様々な面から生徒を捉えていくことが必要である。 【改善方策】 今後も、生徒の日々の言動や表情の変化に気付くことができるよう、教職員が積極的に関わっていく姿勢を持ち続けなければならない。スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー等の専門家とも連携を密にし、一人ひとりの生徒への目配り、気配り、心配りを怠らずに行っていく。不登校生徒については、上記の外部人材のほかにフリースクールや子ども家庭センター等の専門機関とも連携しながら個に応じた支援をしていく。	教職員アンケート	◎	40	60	0	0	100	
					生徒アンケート	◎	53	34	8	5	87	93
					保護者アンケート	◎	30	61	9	0	91	
	・生徒理解・教育相談の充実と自己存在感や充実感を感じられる教育の推進	⑬	A	【考察】 肯定率は三者とも前回同様高く、生徒会行事や日々の委員会活動により、生徒自身が自治的な活動をすることができている状況であるといえる。しかし、生徒、保護者ともに肯定できない状況があることもしっかりと受け止め、生徒一人ひとりが生徒会の一員である 【改善方策】 1学期末に行われた生徒総会では、生徒会役員を中心に、全校生徒で積極的な話し合い活動をすることができた。今後も戦略的に生徒会行事や委員会活動を充実させるとともに、生徒の自主的かつ自発的な活動を促すという視点とリーダーの育成にも力点を置き、諸活動の実践計画を設定していきたい。	教職員アンケート	◎	70	30	0	0	100	
					生徒アンケート	◎	66	32	0	2	98	97
					保護者アンケート	◎	41	52	7	0	93	
		⑭	A	【考察】 非常に高い肯定率となっている。特に地域有識者アンケートの項目のうち、「4 そう思う」の回答率が最も高い項目が本項目となっている。生徒達は、身だしなみに気を付けて、中学生らしい言動で生活することができているとともに、地域でのあいさつが大変よくできている状況である。ただ、忘れ物が多いことを理由に「どちらかと言えばそう思う」と回答している状況も見られる。 【改善方策】 中学生として望ましい生活習慣の確立のために、家庭の協力を求めていく。特に睡眠時間の確保やスマートフォンの使い方に関しては、特に重点的に啓発を行っていきたい。あいさつがよくできていることについては、本校の良さとして改めて認識させ、あらゆる場面で気持ちの良い挨拶ができるよう、声掛けを継続していく。忘れ物が多い生徒については、家庭にも協力を仰ぎながら、改善に向け、効果的な方略を生徒とともに考えていきたい。	教職員アンケート	◎	50	50	0	0	100	
					生徒アンケート	◎	59	39	2	0	98	
	・生徒の自治的活動を通じた自主性や自律性、規範意識等の社会性の育成	⑮	A	【考察】 各学級担任は多忙な中でも日記指導や小まめな声掛けにより、生徒とのコミュニケーションをとり、生徒理解に努めている。あゆみで教員とやり取りすることを楽しみとしている生徒もいる。一方で、あゆみの積極的かつ効果的な活用を求める保護者の声もあり、検討していかなければならない。 【改善方策】 生徒と教職員との対話については、教職員の業務改善をさらに進め、教師がゆとりをもってじっくりと生徒と関わる時間を創出できるよう取り組んでいく。あゆみは生徒にとって学校での安心を生み出す機能もあるため、効果的に機能するよう取組を継続する。	保護者アンケート	◎	47	53	0	0	100	99
					教職員アンケート	◎	60	40	0	0	100	
					地域有識者アンケート	◎	81	19	0	0	100	
		⑯	A	【考察】 各学級担任は多忙な中でも日記指導や小まめな声掛けにより、生徒とのコミュニケーションをとり、生徒理解に努めている。あゆみで教員とやり取りすることを楽しみとしている生徒もいる。一方で、あゆみの積極的かつ効果的な活用を求める保護者の声もあり、検討していかなければならない。 【改善方策】 生徒と教職員との対話については、教職員の業務改善をさらに進め、教師がゆとりをもってじっくりと生徒と関わる時間を創出できるよう取り組んでいく。あゆみは生徒にとって学校での安心を生み出す機能もあるため、効果的に機能するよう取組を継続する。	生徒アンケート	◎	51	39	8	3	90	94
					保護者アンケート	◎	41	56	4	0	96	
		⑰	A	【考察】 各学級担任は多忙な中でも日記指導や小まめな声掛けにより、生徒とのコミュニケーションをとり、生徒理解に努めている。あゆみで教員とやり取りすることを楽しみとしている生徒もいる。一方で、あゆみの積極的かつ効果的な活用を求める保護者の声もあり、検討していかなければならない。 【改善方策】 生徒と教職員との対話については、教職員の業務改善をさらに進め、教師がゆとりをもってじっくりと生徒と関わる時間を創出できるよう取り組んでいく。あゆみは生徒にとって学校での安心を生み出す機能もあるため、効果的に機能するよう取組を継続する。	教職員アンケート	◎	60	40	0	0	100	

※1 「よりよい学校づくりのためのアンケート」回答者数:生徒44名、保護者30名、地域有識者28名、教職員10名

※2 全体肯定率は各アンケートの単純平均